

職場の教養

11
2026
NOVEMBER

職場の教養

11月号

2026年(令和8年)11月1日発行
(毎月1回1日発行)
第51巻11号 通巻の111号

編集人 有坂宏一
発行人 三浦貴史

一般社団法人 倫理研究所
<https://www.rinri-jpn.or.jp>

本誌は非売品で、倫理研究所の法人会員に毎月無料で贈呈しています。入会のお申し込み・お問い合わせは、倫理法人会事務局へ。

2027
標語カレンダー

今日の道しるべ

お得意様やお客様へ
社名やロゴ、
キャッチフレーズ等を入れて
贈ってみませんか。



表紙&31日分のカレンダーの
下段に御社のネームを印字し、
PRできます。

【標語カレンダーのサイズ】
ヨコ130mm×タテ380mm

名入れ部分
寸法:ヨコ112mm×タテ35mm

名入れのご注文を
承ります(100部~)

自社の住所・社名・ロゴ・電話番号・
企業理念などが入れられます。
(表紙&31日分)

1,000部以上のご注文にも
対応いたします。

発行/倫理研究所 定価 **500円** (税込)



2027
標語カレンダー
定価
500円(税込)



子育て
カレンダー
定価
700円(税込)



子ども
カレンダー
定価
700円(税込)



子供ミニ
カレンダー
定価
500円(税込)

子育てカレンダー(親向け)と、子どもカレンダー(子供向け)の内容が毎日リンク

通常価格 2,400円(税込) ▶ 特別価格 **1,980円** (税込)

※子育てカレンダー、子どもカレンダー、
子供ミニカレンダーは、
2017年発売時と同じものです。

子どもカレンダー標語の例 1日 よーいドン!
サツと起きよう、元気よく 2日 あいさつは、
いつでも誰にでも自分から 4日 おじいちゃんと、
おばあちゃんいたから私がいる

ご注文方法

お届け先の《〒・住所・氏名・電話番号と品名・
部数》をご記入のうえ、右記いずれかの方法で倫理
研究所販売係まで。商品が3,000円(税込)以上
お買い上げの場合、送料無料です。代金は商品
に同封の郵便振替用紙にてお支払いください。

- ① ハガキ:〒102-8561(住所記載不要)
倫理研究所販売係宛
- ② F A X : 03-3239-7430
- ③ ホームページ
(右のQRコードから申込み可)



所属

氏名

おかげさまで50周年



一般社団法人 倫理研究所



今日の心がけ◆正しい努力を重ねましょう

仕事を進める上では、「やる気をもって」「やる気を出して」など、「やる気」という言葉が職場内で使われる場面がよくあります。

一般的に仕事の現場で使われる「やる気」とは、仕事への意欲や業務目標達成に対する欲求の高さや強さを指す場合が多いでしょう。

しかし、現在の自分の力量やキャパシティを超える仕事を無理に行なうと、思わぬ失態を招くことがあります。つまり、「やる気」が空回りする場合です。

たまたま、能力を超える成果を上げられたとしても、それを基準に以後の仕事を見積もると、本来の実力がわからなくなり、無理を重ねることになりかねません。無理をした分だけ、そのツケはいつか清算しなければならぬでしょう。

特にチームで仕事をする場合、メンバー一人ひとりが現在の實力に見合った仕事に全力を注ぎ、協力し合う方が、最終的な成果も上がるのではないのでしょうか。

今の自分に見合った仕事を行なって力をつけ、無理のない努力を重ねながら、将来に向けて実力発揮の範囲をさらに広げていきたいものです。

今日の心がけ◆自分の強みを磨きましよう

雑草学と呼ばれる分野では、人間が望まない場所に生えてくる植物を「雑草」と呼びます。日本には数百種類の雑草が存在するといわれています。雑草には、どんな環境でも生き抜く強い植物という印象があります。

しかし実際は、自然界では競争に弱い植物です。そのため他の植物との競争を避け、自らの強みを活かせる環境で生き残ってきました。

その代表例が「オオバコ」です。ドイツでは「道の見張り」、中国では「車前草」と呼ばれ、人や車に踏まれやすい場所に生えています。葉は柔らかく衝撃を吸収し、内部の強い筋が支えるため、踏まれても傷みにくいのです。

さらに、オオバコの種子は雨で濡れると粘着性を帯びます。そのため人の靴や車のタイヤに付着して遠くへ運ばれ、子孫を広げることができます。つまりオオバコは、「踏まれる」という不利な環境を種の繁栄に活かしているのです。

私たちも仕事では、他人とばかり比べてしまいがちです。しかし、重要なのは自分の強みや個性を活かせる環境を見極めることではないでしょうか。

再発見! 宝石と鉱物編

ほっかいどうせき
北海道石

(北海道鹿追町・愛別町)

紫外線を照射すると、鮮やかな黄緑や黄に輝く美しい石。北海道愛別町と鹿追町で発見され、2023(令和5)年に国際鉱物学連合に認定を受けた新種の鉱物だ。地層中の生物の化石が火山の地熱を受けてきたとみられ、希少な有機鉱物と

して世界の鉱物研究者の注目を集めた。保全のため詳しい産地は非公開で、許可のない採掘も禁じられている。「とかち鹿追ジオパークビジターセンター」では、標本や蛍光の様子公開されることがある。



今日の心がけ◆慣れに甘えず行動しましょう

保険会社の営業職として働くSさんは、散髪の際には同じ理容師に髪を切ってもらっており、十年ほどの付き合いになります。

細かい注文をしなくても、「いつも通りで」の一言で希望通りの髪形に仕上がってくれるため、Sさんは安心してその理容室に通っていました。

ところが最近、理容師の対応が以前ほど丁寧ではないと感じるようになってきました。〈以前は髪形を細かく確認したり、シャワーの温度を気遣ったりしてくれていたのに〉と不満を覚え、これを機に別の店へ変えようと思いました。

そんな折、Sさんが長年担当してきた顧客から突然、契約解除の連絡が入りました。理由を尋ねても詳しい説明はなく、Sさんは、〈自分も知らず知らずのうちに、お客様への対応がおろそかになっていたのではないかと振り返りました〉

慣れ親しんだ相手や長年の付き合いだからこそ、無意識のうちに気の緩みや甘えが生じることがあります。親しい相手にこそ、真心を込めて丁寧に接していきたいものです。

今日の心がけ◆落ち着いて考えましょう

「サンキュー事故」というものがあります。これは、道を譲られた車が十分な確認をせずに右折し、死角から来た対向車とぶつかってしまふ事故のことです。

この事故は、譲ってくれた相手を待たせては申し訳ない、その好意に応えようという気持ちから、本来必要な確認を省略してしまうことで起こります。

同様のことは、仕事でも起こります。ある時、Aさんは別の部署に要件を伝えに行つた際、同じようにその部署に用事があつた同僚にばったり会いました。

同僚が順番を譲ってくれたので、少し急いで先方に伝えた結果、言うべきことを言い忘れてしまいました。

また、Aさんは会議の日程について都合を聞かれた際、予定表を見ずに「その日は大丈夫だったはずですよ」と記憶を頼りに返事をしたことがあつたそうです。

ところが後で確認をすると、別の予定と重なっていたのです。

私たちは善意による焦りから、判断を急ぎすぎてしまう場合があります。相手のために行動をしている時こそ、慎重に考えて前に進みたいものです。

再発見! 宝石・鉱物編

石英、水晶、メノウ
(茨城県ひたちなか市)

荒々しい岩場が続く磯崎海岸は、メノウや石英、水晶、玉髄(ぎよくずい)といった鉱物を拾える「ビーチコーミング」スポットとして知られる。とくに、日本では産地が少ない「黒メノウ」が拾えることで、知る人ぞ知る穴場だという。また、

そこから少し南下した平磯海岸も同じように黒メノウが落ちていところがある。熱心に掘り、夢中で綺麗な石を探す。石には人を驚きつける不思議な力があり、その魅力は今も昔も変わらない。



11/16(月)

やさしさの連鎖

今日の心がけ◆受けた優しさを周囲に広げましょう

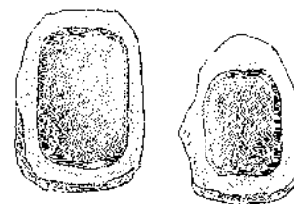
新潟県に「優しすぎる」と話題のコンビニエンスストアがあります。同店の店頭には、暑い夏季には「熱中症だと思ったら無理をせず店内で涼んでいただくさい」、寒い冬季には「雪道の運転に疲れたら、遠慮せずに店内で温まってください」という張り紙が掲示されています。いずれもその後には「気を使っての不必要な物の購入は不要です」という文言が添えられており、その心遣いは広く支持され、大きな話題となりました。店長のTさんは旅先で熱中症になった際、飲食店の店員に救われた経験から、その優しさを地域の人にも届けたいとの思いでこの取り組みを始めたといいます。受けた優しさを人に与えることは、相手を喜ばせるだけでなく、自分が受けた優しさを改めて実感することにもつながります。そうして思いやりが受け継がれていけば、周囲はより温かな雰囲気包まれることでしょう。職場においても、共に働く仲間から受けた優しさや労りを周囲に広げ、思いやりの輪を育んでいきたいものです。

11/15(日)

食に意識を

今日の心がけ◆食事を喜んでいただきます

各地域には風土に根ざした料理があります。料理は、単に作って空腹を満たすだけではなく、その土地で生き残るための大きな役割を果たしてきました。例えば、現在沖縄県に残っている食文化は、琉球王朝時代に外国からの賓客をもてなすために生まれた宮廷料理と、亜熱帯の厳しい自然環境のもとで知恵を絞って作られた庶民の料理とが合わさったものです。特に、庶民の料理においては、普段の食事で病気の治療や予防をするという「医食同源」の考え方があったといわれています。現代でも、食生活を変えた以降、健康状態が変わったという体験をした人は多いのではないのでしょうか。しかし、現在は共働き世帯も増え、調理や食事の時間をかけることができない家庭もあります。日常生活を送る上で体は最大の資本です。食事に時間をかけることは難しくても、作った料理を味わい、喜んで食べることはできます。まずは、目の前の食べ物をおいしくいただくことから始めてみてはいかがでしょうか。



元が鳳足石を油薬に使った「宿病鳳足硯」を完成させた。金局のような銀色の光沢に、光の当たり具合によって変化する虹彩が特徴的な、素朴ながら美観な硯だ。役目を失いかけた伝統の石に、新たな命が吹き込まれたのだ。

日本再発見! -宝石・鉱物編-

ほうそくせき
鳳足石

(福井県小浜市)

当県地方の山深く採掘される紫色の鉱石で、かつては硯石(すすりいし)として用いられてきた。鳳足石硯は江戸期には寺社や大名に献上され珍重されたというが、後継者不足などに伴って生産が途絶えてしまった。しかし近年、地元の家

今日の心がけ◆工夫をして暖かく過ごしましょう

また、服飾系グッズでは、太い血管が通る「三つの首」、すなわち首・手首・足首を重点的に温めるアイテムも広く活用されています。これらを活用すること
で血行を良好に保ち、冷えの予防につながることができます。
寒冷地では古くから、食材や料理によって身も心も温まる工夫が受け継がれて
きました。そうした知恵に新たな工夫も取り入れながら、地球にも、自分にも、
家計にも優しい防寒対策を楽しみ、寒い季節を元気に乗り切りましょう。

朝晩の冷え込みが増し、寒さ対策の重要性が高まる季節となりました。体調
管理や快適な生活環境を維持するためにも、防寒への備えを進めたいものです。
住環境の対策としては、窓に断熱シートを貼る、カーテンの文や素材を見直す、
床にカーペットを敷くなどの工夫があります。これらは室内の保温に効果的です。
服装面では、これまで推奨されてきた厚着や重ね着に加え、インナーを含めた
衣類の素材にも注目が集まっています。近年は機能性に優れた防寒衣料も充実
しており、自分に合ったものを選ぶことができます。

また、服飾系グッズでは、太い血管が通る「三つの首」、すなわち首・手首・

本日、十一月二十三日は勤労感謝の日です。この日は、昭和二十三年に制定さ
れた「国民の祝日に関する法律」に定められた国民の祝日の一つで、「勤労をた
つとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう」日とされています。
私たちが日々の暮らしを営むことができるのは、多くの人々の働きによるもの
でしょう。例えば、さまざまな食料や道具、情報など、目頃利用している物やサ
ービスは、生産や輸送などの仕事に携わる人々によって支えられています。
また、過去に目を向けると、先人たちの働きの積み重ねによって現在の社会が
築かれていることが分かります。過去から現在に至るまで、多くの人々の働きに
よって私たちの社会は成り立っているのです。
一人が取り組める仕事には限りがありますが、一人ひとりの働きが組み合わさ
ることで、仕事の規模や可能性はさらに広がっていきます。
勤労感謝の日にあたり、周囲の人々の働きに思いを致すだけでなく、自分の仕
事が持つ意義についても改めて考えてみたいものです。

今日の心がけ◆仕事の意義を考えましょう

再発見! 宝石と鉱物編

サファイア (奈良県香芝市)

「日本でサファイアが採れるなんて」と驚く人もいるだろ
う。奈良県香芝市を流れる、葛下川(かつげがわ)の支流・
竹田川では、川底の砂の中からサファイアが見つかることが
ある。サファイアはダイヤモンドに次ぐ硬さをもつ鉱物。砂

をすくってルーペなどで観察すると、1mm以下の青く透き
透った粒が混じっていることがある。これがサファイアだ。
古くから採掘され、研磨材として利用されてきた金剛砂(ガ
ーネット)なども見つけることができる。



今日の心がけ◆自然の恵みに価値を見出しましょう

大切な意味が隠されていることがあります。
私たちが身の回りにある物事を先入観だけで判断せず、その価値や可能性に目を向ける姿勢を大切にしたいものです。

長野県の伊那市を中心とする天竜川流域には、「ざざむし」を食す文化があります。ざざむしとは、特定の虫の名前ではなく、川底に生息するトビケラやカワゲラ、ヘビトンボなどの幼虫を総称したもので、甘辛く煮て食べられてきました。山に囲まれた内陸部では、かつて昆虫は貴重なたんばく源でした。人々は、身近な自然の恵みを活用しながら、暮らしを支える知恵を培ってきたのです。しかし、食生活の変化とともに、そのような食文化は徐々に衰退しつつあります。一方で、近年は世界的な人口増加や環境問題への対応策として、昆虫食が再び注目を集めています。

かつては当たり前だったものが忘れられ、時代を経て新たな価値を見出される

ことは少なくありません。今は目立たないものの中にも、将来に役立つ可能性や

大切な意味が隠されていることがあります。

私たちが身の回りにある物事を先入観だけで判断せず、その価値や可能性に

目を向ける姿勢を大切にしたいものです。

今年も残すところあと二日で師走を迎えることとなりました。年の初めには、それぞれが何らかの目標を掲げて一年をスタートされたことと思いますが、この十一カ月でその目標はどれほど形になったでしょうか。掲げた目標の内容や与えられた機会、努力の積み重ねなどによって、年初に思い描いた姿に対する成果や結果が見えてきている頃だと思っています。計画通りに進み、成果が表わられていれば何よりですが、思うような結果に至っていない場合もあるでしょう。そんな時は、どう受け止めるかが大切です。目標と比べて「これだけしかできなかった」と考えるのか、それとも「ここまでできた」と考えるのか。その捉え方で次への歩みは大きく変わります。「これだけしか」と考えれば気持ちも沈みがちになりますが、「ここまでできた」と前向きに捉えれば、課題を見つけ次への活力につながるができます。肯定的な気持ちで今年ここまでの歩みを振り返り、残された一カ月を有意義に過ごして、新しい年を気持ちよく迎える準備を進めてまいりましょう。

今日の心がけ◆前向きな捉え方を次への力にしましょう

日本再発見! -宝石・鉱物編-

真珠

(愛媛県宇和島市・愛南町・高知県宿毛市)

宇和島から愛南町にかけての宇和海は、真珠の母貝であるアコヤガイの産地に適した真珠の産地だ。リアス海岸がつくる穏やかな入り江と黒潮の恵みを受け、輝きの強い真珠が産まれている。隣接する宿毛湾も、日本の真珠産地の歴史を語る

うえで欠かせない場所だ。大正時代に真円真珠養殖の企業化が進められ、その発展を支えた歴史をもつ。長い年月と努力を礎にして作られている真珠は、やわらかな光沢をたたえ、世界に届けられている。

